

事業名称	安曇野市ミュージアム活性化事業		
実行委員会	安曇野市ミュージアム活性化事業実行委員会		
中核館	安曇野市豊科近代美術館		
	住所	〒399-8205 安曇野市豊科 5609-3	
	TEL	0263-73-5638	FAX 0263-73-6320
	ホームページ	http://www.azumino-museum.com	
構成団体	碌山美術館、絵本美術館&コテージ森のおうち、安曇野高橋節郎記念美術館、信州大学、安曇野市教育委員会		
事業開始時点の課題分析	<p>安曇野市内には市立・私立を含め20館余りの美術館が存在している。いずれも小規模な施設であり、単独で事業の周知や学校と連携した事業を行うことは非効率なため、これまで実行委員会を組織し、協力した取り組みを重ねてきた。</p> <p>低予算・少人数の施設でも可能な事業として、全館で期間を決めてギャラリートークを行うことから始め、小中学校・福祉施設・病院などにアウトリーチを行い美術館等が地域で活用されるよう事業を進めてきた。</p> <p>しかし、継続した事業は、各担当者の意識の改善を促すが、事業への参加回数が増すとともにマンネリ化が否めず、硬直した事業は魅力に欠ける状況になってきている。これらことから、事業内容を一新しマンネリ化を解消する必要がある。また、地元大学との連携にあたっては、より密着した連携方法を工夫していく必要がある。</p>		
事業目的	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの市民が地域の芸術文化により触れることのできる機会、また各美術館・博物館がそれらを提供する機会が失われつつある。感染症対策を行いながら、小規模館がこれらの事業を単独で行うことは困難であり、連携をしながら事業を行っていく必要がある。</p> <p>また、プログラムの実施にあたっては一方的な取り組みではなく、市民の反応も反映できる機会の創出も必要である。各施設の学芸員等のみが接するのではなく、普段制作活動を行う作家にも参加してもらい、芸術文化をより身近に感じてもらう。また地元大学との連携も進め、事業の際には学生にも加わってもらう。</p>		
事業概要	<p>1. オンラインギャラリートーク 15館ほどの美術館・博物館と連携し、感染症の影響等により来館が難しい市民でも、自宅などで芸術文化について知識が深めることができるよう、ギャラリートーク動画を作成。オンラインに公開する。</p> <p>2. 出前ワークショップ 市民が美術館・博物館に触れる機会として、中学校の美術部や福祉施設・病院へアウトリーチする。より芸術を身近に感じてもらうため、各館の収蔵品展示や講師として作家を招き、収蔵品に関する技法や知識を実技を交えながらレクチャーする。</p> <p>3. コミュニティーの活性化 定期的な学芸会議や学芸員等研修会による知識理解の向上、またミュージアムサポーターの育成を行う。</p> <p>4. 大学連携事業</p>		

	<p>博物館実習等の授業と連携し、各館での実習や上記事業への参加を行い、地域文化を支える人材の育成を行う。また、学生に対し学芸員がオンラインでの講義を行い、安曇野の美術に関する知識も深める。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>1. 安曇野の芸術文化を利活用するミュージアム連携活動</p> <p>(1) ミュージアムの資質向上と運営体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学芸員等研修会 (研修会) ② ミュージアムサポーターの活用 (サポーター) ③ 実行委員会 (実行委員会) ④ 専門部会 (専門部会) <p>(2) 安曇野の芸術資源を活用し普及する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ① オンラインギャラリートーク (オンラインギャラリートーク) ② 出前ワークショップ (出前ワークショップ) <p>(3) 大学等と連携した地域文化を支える人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 事業実施における補助 (協働展示／ワークショップ) ② ミュージアムにおける実習 (大学連携事業) ③ オンライン講座 (オンライン講座)
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>安曇野市内の美術館・博物館が連携し、予算や人員の面から単館では実施が難しい事業を、複数館で協力して行った。</p> <p>特に中核館である豊科近代美術館は、各事業を通して、他館の特徴ある知識や技術を学ぶ機会を作り、情報を共有することで、各館の学芸員等のスキルアップにつながり、それぞれの活動の幅を広げることに貢献した。</p> <p>昨年から続く、新型コロナウイルス感染症まん延下で、学校の児童・生徒が芸術に触れる体験の機会が減少しているなか、学校に向くことにより本物の作品や、アーティストに出会う機会を提供した。児童・生徒が芸術に感動し、深く考えたり疑問に思ったりしながら、感性を豊かにする機会を生み出したことは非常に大きい。また、人の移動や接触が制限されるなか、実施可能な事業について互いに検討し、オンラインを活用するなど工夫しながら事業を実現した。</p> <p>学校、市民、大学と連携することにより、相互の活動を知りながら新たなアイデアを頂くなど、交流が一層深まり、本事業が地域貢献や公立・私立の美術館・博物館の活性化に大きな効果をもたらすことができた。</p>

【事業実績】

(1) ミュージアムの資質向上と運営体制の強化

① 学芸員等研修会

感染症対策によりオンラインにて講義を行った。

【期日】令和4年2月18日

【参加者】参加者数20人（対象者は近隣市町村の学芸員等）

【講師】山下樹里（金沢21世紀美術館 学芸員）

【テーマ】コロナ禍における金沢21世紀美術館の状況と教育普及

【反省・感想】

金沢21世紀美術館は一度は行ってみたいと思っていたので、企画などの詳しいお話を聴くことができ良かった。特に観光地となってしまっている現状があり、市民の方々にもっと知ってもらいたいという悩みをお聴きして、こういった有名な美術館でも、市民の方々に芸術に関心を持っていただくために努力していることがわかった。

② ミュージアムサポーターの活用

【期間】①令和3年4月9日②通年で2週に1度

【反省・感想】

(参加館)

お二人とも予定時間よりも早く来ていただき、積極的に対応していただけたので大変助かった。昨今はコロナのために受付時の検温等、人手が必要なので有難い



③ 実行委員会 年2回開催

④ 専門部会 年4回開催

(2) 安曇野の芸術資源を活用し普及する事業

① オンラインギャラリートーク

美術館・博物館の学芸員等が作品・資料の解説を撮影し、オンライン動画として公開した。

【期間】令和3年10月19日（火）～（公開中）

【参加者】参加館11館、公開～3週間の動画再生回数1200回

【反省・感想】

(参加館)

- ・昨年と比べ、音声の質が落ちるとの指摘があったが、今年の話し手・聞き手というスタイルは、寄せられた意見からみても好評だった。
- ・オンラインギャラリートーク、ギャラリートーク両方をご案内できたことが、来館者の反応としておもしろかった。



動画と撮影風景

② 出前ワークショップ

作家及び学芸員が学校等にて児童・生徒向けのワークショップを行った。

【期日・内容・参加者数】

11月20日(土)「プロカメラマンから教わるポートレート講座」12名

11月28日(日)「意外な素材に絵を描いてみよう!絵本作家のお仕事体験」4名

12月22日(水)23日(木) 画家によるライブペイント 約900名

12月22日(水)ダンサーによるダンスパフォーマンス 約450名

12月11日(土)～沈金ワークショップ～金で描こう!私だけの漆作品 2名



絵本作家によるワークショップ

【反省・感想】

(学芸員)

写真教室は、初めは動物をモデルに撮影することを希望していたが、場所の確保などが難しく、節郎館で行った。館内で、人物を撮る設定で、お互いモデルになりながら撮影を行なっていった。作家にとっても初の試みとなった。

(学校)

子ども達にも職員にも、大変丁寧に対応していただき、質問にも詳しく答えていただくことができました。パンフレットをいただけたので、教室に戻っても聞いて見ている子や家に帰って家族にも見せたいと言っている子がいて、良かったです。



学校でのワークショップ

(3) 大学等と連携した地域文化を支える人材の育成

① 事業実施における補助

安曇野高橋節郎記念美術館所蔵の資料を信州大学へ貸し出し、授業における資料取扱い等の用途に供した。

【期日】 令和3年11月11日(木)～令和4年2月1日(火)

【参加者】 信州大学人文学部、安曇野高橋節郎記念美術館

② ミュージアムにおける実習

人文学部金井直教授のもと行われた学生による調査の成果を、信州大学附属図書館において展示公開した。

【期間】 第1期「1993～1995」 令和4年1月18日(火)～1月23日(日)

第2期「1996～1998」 令和4年1月25日(火)～1月30日(日)

③ オンライン講座

学芸員による、博物館実習受講学生向けの講義をオンラインで行った。

【期日】 令和3年11月15日(月)

【講師】 富永淳子(安曇野高橋節郎記念美術館学芸員)

【反省・感想】

(参加館)

・信州大学においては、博物館の運営や資料の取り扱い等について修する学生が、本物の資料に直接触れて学ぶ良い機会となったと考える。展示を行った点についても、漠然と調査するだけではなく明確に目的意識を持ち、成果を発表できたことは、学生には得難い経験になったであろうし、館にとっても、高橋節郎を知っていただく良い機会となった。

(大学)

・資料にふれ、それを読み解き、展示を組むという一連のプロセスを学生たちが直接経験できた貴重な機会でした。地域の芸術家、地域の美術館、学芸の方のお仕事について、深く知る機会にもなったと思います。おかげさまで大学における学芸員養成課程にあり方について問われるいま、ひとつのモデルとなるような充実した実習になりました。



貸出資料



大学での展示